

■ 株価とクロス円の調整は短期に留まる！？

前回更新分の本欄で「目先的には株高と円安の流れが一巡する可能性もある」と述べた。そして案の定、今週は週初から円高の流れが一気に強まる展開となった。結果、ドル/円は週初に位置していた109円台後半から大きく水準を切り下げ続けて、本日(11日)は朝方から107円割れの水準を試す格好となっている。

昨日(10日)は米連邦公開市場委員会(FOMC)が行われ、参加メンバーらの金利見通し(ドット・プロット)において「2022年末までゼロ金利政策が維持される公算が大きい」との回答が得られたことでドル売り優勢の展開となったが、FOMCの結果が明らかになる前までのドル/円の下げは、どう見ても「ドル安」ではなくて「円高」。それも、豪ドル/円やユーロ/円などクロス円が主導する格好で、ドル/円もそれに連れたと見るのが適切と思われる。

ここで、あらためて豪ドル/円の値動きを振り返ってみると、先週の豪ドル/円の週足ロウソクは62週移動平均線(62週線)を上抜けた後、一目均衡表の週足「雲」下限、「雲」上限の水準を次々に上抜ける強気の展開となった(左図参照)。



前回更新分でも述べたように、豪ドル/円の週足は2018年2月半ば以降、これまで一度も週足「雲」を上抜ける場面がなかったことから、足下の値動きは重要な基調転換のサインになり得るものとして見逃せないものとする。

ただ、それにしても足下の上昇ピッチが些か早過ぎるとの感が強いことも否めず、目先は一旦調整入りとなるのも道理ではある。加えて、週足の「運行線」が62週線や週足「雲」に上値を押しえられる状態にもなり、結果的に今週の週足ロウソクは再び週足「雲」の中に潜り込む格好となった。

こうした豪ドル/円の値動きと非常によく似ているのがユーロ/円の値動きで、下図に見るとおり、ユーロ/円の週足ロウソクも先週は長い陽線を描きながら62週線、週足「雲」下限、週足「雲」上限を次々に上抜ける格好となった。ところが、今週は再び週足「雲」上限を試すところまで水準切り下げ、調整含みの値動きとなっている。



こうした値動きに呼応するかのよう、日経平均株価の値動きも今週に入って調整含みとなっている。これは多分にスピード調整の色合いが強いものが見ることができ、当面の下値は自ずと限られると見ていいだろう。

ならば、互いに正の相関が強いクロス円全般とドル/円の下値も自ずと限られるものと考えることができるとわれ、ドル/円についても107円前後の水準から少しづつ買い下がる方針で臨む場面が訪れたと個人的には考えている。米・日株価とクロス円の調整は短期的なものに留まると見る。

(06月11日 10:25)